

サポート通信

令和5年6月7日発行



広島市立広島特別支援学校

発行者 広島市立広島特別支援学校地域支援部

広島市南区出島4丁目1-1 TEL 代表 (082)250-7101

VOL.34

御挨拶

校長 合田 和広

サポート通信を御覧いただき、篤く御礼申し上げます。今年度校長3年目を迎え、不退転の覚悟で学校教育活動へ取り組んでまいります。どうか今年度もよろしく願いいたします。

平成19年4月学校教育法の一部を改正する法律が施行され、地域の特別支援教育のセンター的機能を果たすことが特別支援学校に位置付けられました。平成24年4月に分掌部としてセンター的機能を推進する「地域支援部」を立ち上げ、その後広島市域の教育相談を行うサポートセンターが設立されました。現在は、教育相談を行う教育相談主任2名と相談員2名を配置し、多くの子どもたちや保護者の皆様、教職員の皆様に御利用いただいております。令和4年度の来校相談件数は、延べ1181件でした。支援方法としては、御来校いただく面談での対応が多数で、在学校との連携を大切にしながら相談を進めています。

SDGsの目標の中に「すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を」とあります。この中の「包摂」という言葉。この意味は、「感謝と勇気をもって、自他ともに社会（地域社会）の一員として、理解し合い、尊重し合い、支え合うこと」であり、これこそがインクルージョン(Inclusion)の訳語としてふさわしいと私は考えています。この目標の実現に向けて、特性の違いが一人一人に存在し、障害の有無・人種・性別・年齢・立場を超えて対等であることを前提として、自分を含めすべてをリスペクトする（大切に想う）ことが次世代の社会全体の原理となるよう、今の私たちの手でシフトさせていく必要があります。私たちが「今、ここで、自分にできること」を常に問い、次世代に遺すべき社会のモデルとしての学校づくりをすることで、広島市がこの目標に向けた牽引役としての機能を果たすことができるように最大限の努力を重ねてまいります。

サポートセンターの教育相談

リーフレットはこちら



保護者・本人への支援 (保護者からのお申し込み)

保護者と本人がサポートセンターへ来校する相談です。保護者の承諾を得た上で、学校との連携を基本に進めています。

① 児童生徒の実態把握 保護者との面談



② 在籍校との連携

・「学校・生活アンケート」から連携スタート
・電話や学校訪問で情報交換
担任の先生、特別支援教育コーディネーター、管理職の先生などの同席のもと、話し合い



③ まとめ

保護者と面談



学校への支援 (学校からのお申し込み)

特別な教育的ニーズのある子どもたちの特性の理解や支援の在り方等についての相談に応じます。



まずはお電話ください

直通TEL 256-2310 / 学校代表TEL 250-7101

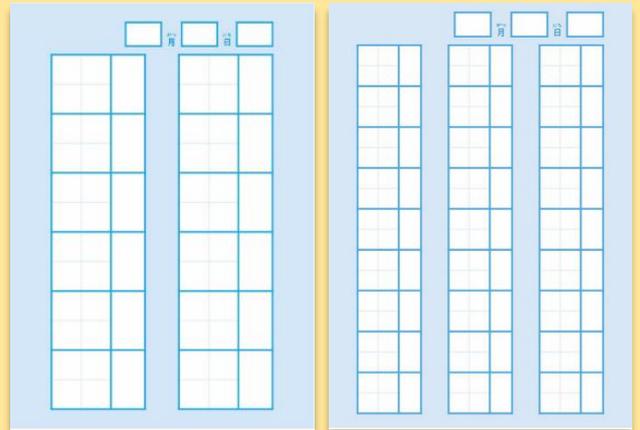
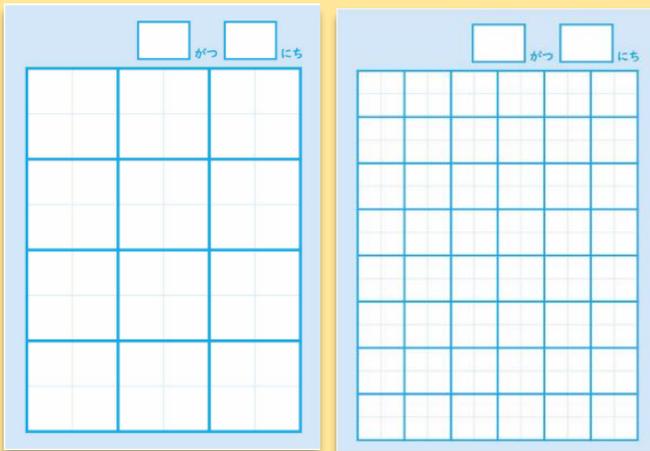
教材紹介1

取り組みやすいノートで学ぼう



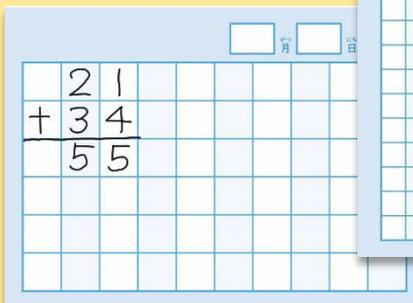
「SchoolLine+ 合理的配慮のためのノート」は、「マス目が大きく設定されている」「枠線が太くて見えやすい」「筆記部分を白抜きにして“どこに文字を書くか”が一目でわかりやすい」という工夫がなされているノートです。子どもが書きやすいものを選ぶことで、学習に取り組みやすくなりそうです。

- ・マス目が大きい！
- ・どこに文字を書くか分かりやすい

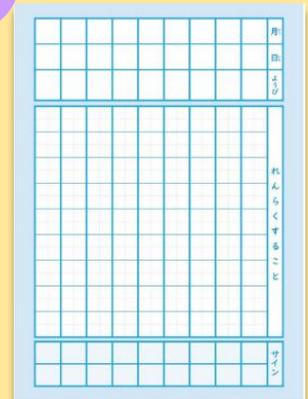


手持ちのノートの工夫にも役立つポイント！

- ・タテ行ごとに色がついているので、筆算の位取りや行がずれにくい。



- ・小文字を書くスペースに色がついていてわかりやすい。



- ・連絡帳も書きやすい形式で！

研修案内

アセスメントから子どもを理解し、支援につなげよう

ウィスク ファイブ
「WISC - V の結果から子どもの理解を深める」

日時：令和5年8月7日(月) 13:30~16:45
 対象：広島市立幼稚園、小学校、中学校、高等学校の
 特別支援学級担任、通級指導教室担当者
 特別支援教育コーディネーター
 講師：広島特別支援学校 教育相談主任、地域支援部
 場所：広島特別支援学校

6月初旬に各学校にメールで案内しています。御覧ください。



教材紹介2

子どもが変われば スケジュールも変わる 子どもが「分かる」スケジュール・手順書もいろいろ



特別支援学校の取組からの紹介

活動に見通しがもてるよう、いろいろな工夫を凝らした「分かる」スケジュール

朝の準備 スケジュール



「発達障害サポートショップ Fly!Bird」で購入したスケジュールボードを、百均のブックエンドを曲げたものに貼って使用しています。準備が終わったもののカードははがして、下のおしまいボックスに入れます。



授業の流れ スケジュール



プラスチックダンボールにクリアファイルを貼って、項目の入れ替えができるようにしたスケジュールボードです。持ち運びしやすいので、体育館や運動場に持って行くことができます。一つ活動が終わると、クリアファイルから項目の紙を外して、次の活動を分かりやすく提示できます。

一日の流れ スケジュール

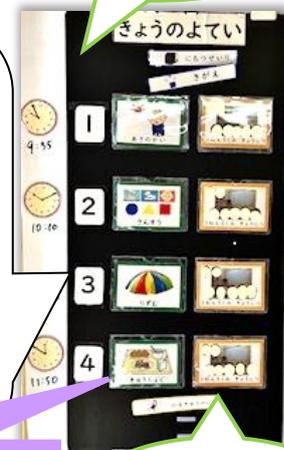
教室の前面に、学習内容カードと場所カード、始まりの時間を貼って一日の流れが分かるようにしています。活動と活動の間隙間に「休憩」や「荷物整理」、トイレカードを貼ることができるようになっています。

「いつ」「どこで」「誰と」「何を」が明確になり、より自分で次の活動に見通しをもつことができます。



始まりの時刻 学習内容 場所 一緒に学習する人

背景を黒にすることで、カードが際立つ



給食、そうじ、休憩トイレなど個別に必要な項目を入れてもOK

必要に応じてカードをはがし、子どもの目の前で提示する



様々な学校の取組からの紹介

子どもの分かり方に合わせて一工夫が加えられた、主体的な活動につながるスケジュール

めくり式スケジュール

「今やること」が分かりやすい。



スケジュール下敷き

次は大休憩だ!

いつでも手元で活動の流れを確認できる。



黒板の端にスケジュール

通常の学級の黒板。「トイレ」の表示を付け加えることで、先生に聞かなくても自分でトイレに行けるようになった子ども!



書評

「感覚過敏の僕が感じる世界」 加藤路瑛 日本実業出版社

著者の加藤路瑛さんは、幼少期から、騒がしい場所や食べること、靴下をはくことなどを苦痛に感じ、表現できない息苦しさを感じていた中、中学1年生で「感覚過敏」という言葉に出会います。そして、感覚過敏の困りごとを解決したいと2020年13歳のときに、感覚過敏研究所を立ち上げられました。現在16歳で、感覚過敏の啓発、対象商品の企画・生産・販売、感覚過敏の研究に力を注いでいます。

著書の中で、「僕は学校の先生に『一人ひとりの生徒に向き合っていることに気がついてほしい』なんて、求めたくないです。目に見えないものを理解してほしいとか、気がついてほしいというのは無理があると思っています。先生方には『感覚過敏』というものがあることだけ知っていただければ十分です。先生の知識の引き出しの中に、感覚過敏というキーワードと、少しの困りごとの代表例を入れておいていただきたいです。そしてときどき、つらそうにしている生徒や不可解な行動をとっている生徒がいたら、そして生徒や親に相談されたら、その引き出しを開けてほしいのです。」とあります。

私達教員が、まずは感覚過敏について知り、児童生徒や保護者の困りごとを感じて、見守ったり一緒に考えたりすることのきっかけになるかもしれません。



書評

「14歳からの発達障害サバイバルブック Part2

自分自身に贈るギフト(強み)の見つけ方」 難波寿和 学苑社

著者の難波寿和さんは、発達障害の当事者でもあり、支援者でもあります。心理士として障害のある人やその家族、支援者と一緒に生きやすく生きることについて関わる中で、支援者が良いと考えるものと当事者の心の叫びとのギャップがあることを感じ、そのギャップを埋めるために執筆活動を始められました。

この本では、ギフトの見つけ方と当事者へのインタビューがまとめられている点が特徴で、ギフトの見つけ方は学級の児童生徒、また、自分や家族についても実践してみたいくなる分かりやすい内容でした。当事者へのインタビューは、大人になった当事者がどうやって人生を切り抜けてきたかを具体的に解説付きで紹介してあります。子どもの当事者や保護者へのインタビューでは、保護者と一緒に子どもの生きづらさについて振り返り、そこから生きやすさを見つけていくためのヒントが解説されています。

まず、読んだ人が自分自身のギフトを見つけ、支援者との関わりに生かしていく過程を実践していくことができる興味深い著書だと感じました。



研修案内

広島市小学校教育研究会A(特別支援教育部会)夏季研修会

実際の授業のビデオ視聴や各グループ幹事の教材紹介のほか、日頃の悩みの相談にも応じます。児童生徒の理解や具体的な対応、授業づくりのヒントが満載です。

対象:特別支援学級担任、通級指導教室担当者等

日時:令和5年7月28日(金)13:30~16:45

場所:広島市立広島特別支援学校

お申込みはこちらから
<問い合わせ先>
五日市小学校(川本)

